

## 薬剤師を対象とした Decision Aid のニーズ調査に関する研究

研究分担者	吉尾 隆	東邦大学薬学部臨床薬学研究室	教授
研究協力者	松尾和廣	東邦大学薬学部臨床薬学研究室	准教授
	植草秀介	東邦大学薬学部臨床薬学研究室	助教
	平賀秀明	東邦大学薬学部薬事法学研究室	講師
	高橋瑞穂	東邦大学薬学部社会薬学研究室	講師
	古川菜々美	東邦大学薬学部臨床薬学研究室	5年次生
	宮澤史梨	東邦大学薬学部臨床薬学研究室	5年次生

### 研究要旨

わが国でも SDM が注目される中、一方で、実装に向けた具体的な方策は手探りの段階と言え、Decision Aid の開発もまだ乏しい。そこで、本研究では、多剤・長期処方が社会問題となっている精神科薬物療法に焦点をあて、『安全な長期維持療法を選択するか、減量や中止を選択するかの医療者と患者の共同意思決定』の実装にむけ、そのための支援ツールである Decision Aid を上述の国際基準に則って開発することを目的としているが、医療、支援、受療側である医師、薬剤師、コメディカルスタッフ、患者および家族を対象として、作成した実践マニュアルのニーズ調査およびベータ版の使用感調査を行い実用性の向上を図る必要がある。

#### A．研究目的

この調査では、精神科医・心療内科医、一般診療科医師以外に、薬剤師を対象とした調査を行う予定であり、予備調査として薬剤師を対象とした Decision Aid のニーズ調査を行い、精神科領域のみならず、広く医療現場で薬剤師業務に従事する薬剤師にとって DA が実際に必要とされるアイテムであるのかを把握することを目的とする。

#### B．研究方法

アンケート調査  
<参考資料 1>

#### 倫理面への配慮

調査協力者の年齢、性別や職業履歴などの情報については、氏名や所属先名は情報として取り

扱わないため個人が特定可能な情報を取り扱いません。

#### C．研究結果

現在、Decision Aid のニーズ調査を実施中であり、精神科臨床薬学研究会、日本精神薬学会会員に宛、アンケートを送付し、回答を集計している。アンケートの回収締め切りは令和 2 年 4 月 15 日に指定しており、200～300 名程度の回答が得られると予測している。

#### D．考察

#### E．結論

#### F．研究発表

なし

< 参考資料 1 : DecisionAid ニーズ調査 (案) >

各位

東邦大学薬学部医療薬学教育センター  
臨床薬学研究室 吉尾 隆

厚生労働科学研究；精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する Decision Aid (治療選択の手引き)  
の開発に係わる予備調査としての Decision Aid に関するニーズ調査

アンケートへのご協力をお願い

下記の Decision Aid に関する説明とサンプル DA (睡眠薬) をご覧いただき、別添のアンケートにお答えください。尚、サンプル DA (睡眠薬) の二次利用はご遠慮いただき、アンケート終了後は破棄して頂きますようお願いいたします。

厚生労働科学研究「精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する Decision Aid (治療選択の手引き) の開発」では、多剤・長期処方が社会問題となっている精神科薬物療法に焦点を当て、『安全な長期維持療法を選択するか、減量や中止を選択するかの医療者と患者の共同意思決定』の実現にむけ、そのための支援ツールである Decision Aid を国際基準に則って開発することを目的としています。

そこで、Decision Aid の作成・試行に先立ち、精神科医・心療内科医、一般診療科医師以外に薬剤師を対象とした調査を行う予定ですが、本調査では、予備調査として薬剤師のニーズ調査を行うことを目的としています。適正な精神科薬物治療を実施するために、Decision Aid ニーズ調査へのご協力をお願い致します。

共同意思決定 (shared decision making : SDM)

患者と医療者が治療方針の決定に関して目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。近年、SDM の導入により、患者の満足度や治療に関する知識が増す、診察における医師との対話が活発になる、さらには、望まない治療が減り医療費の削減になるといった効果があることもわかってきた。

Decision Aid (治療選択の手引き：意思決定ガイド)

SDM を円滑に実施するための治療選択の手引きのこと。欧米を中心に様々な疾患の治療を対象に開発されている。

精神科薬物治療ガイドラインニーズ調査		
以下の質問にお答えください。		クリックしてプルダウンメニューから選択してください
1	あなたの性別をお答えください。	
2	あなたの年齢層をお答えください。	
3	あなたの薬剤師歴をお答えください。	
4	あなたの勤務先をお答えください。	
5	質問4で「病院」と回答された方は、病院の種類をお答えください。	
6	病院の場合、精神科はありますか？	
7	病院の場合、心療内科はありますか？	
8	薬局の場合、精神科のある病院又は診療所の門前薬局ですか？	
9	薬局の場合、心療内科のある病院又は診療所の門前薬局ですか？	
10	あなたの職位をお答えください。	
11	あなたの勤続年数をお答えください。	
12	認定薬剤師取得の有無をお答えください。(複数回答可) 複数回答の場合、プルダウンメニューは右の列に続けて5つあります。	
13	Decision Aidについてご存知でしたか？	
14	質問13で「いいえ」と回答された方は、説明(別紙)を読んでDecision Aidについて理解できましたか？	
質問13、14のどちらかで「はい」と回答された方は以下の質問にもお答えください。		
15	症状が安定した後の患者やその家族から以下の向精神薬の継続・中止について相談されて困ったことがありますか？	
	・抗精神病薬	
	・抗うつ薬	
	・抗不安薬	
	・睡眠薬	
	・気分安定薬	
	・ADHD治療薬	
16	困った内容について記載してください(自由記載)。	
17	その時に、参考にした資料はありますか？(複数回答可) 複数回答の場合、プルダウンメニューは右の列に続けて6つあります。	
18	以下の向精神薬のDecision Aidは必要ですか？	
	・抗精神病薬	
	・抗うつ薬	
	・抗不安薬	
	・睡眠薬	
	・気分安定薬	
	・ADHD治療薬	
19	Decision Aidに記載する内容で必要と思われる項目を選択してください(複数回答可)。 複数回答の場合、右にプルダウンメニューは6つあります。	
20	Decision Aidは医師、看護師、薬剤師との話し合いに活用できそうですか？	
21	Decision Aidは患者との話し合いに活用できそうですか？	
22	Decision Aidについて何かご意見があれば記載してください(自由記載)。	
23	薬剤師の視点から向精神薬を継続vs減薬の利点と欠点についてご意見をお聞かせください(自由記載)。	
ご協力ありがとうございました。		